

(10) 四 国



四国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

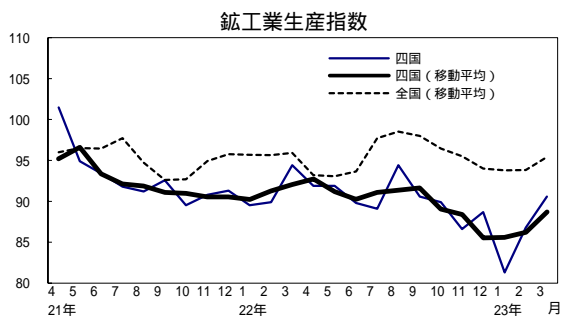
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年3月)	今回 (令和5年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	<u>持ち直しの動きがみられる</u>	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、前期比2.5%減となった。月別にみると、1月は汎用・生産用機械が減少したこと等により前月比8.3%減、2月は化学・石油石炭製品が増加したこと等により同6.8%増、3月は化学・石油石炭製品が増加したこと等により同4.4%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
化学・石油石炭	22.1	11.0	2.9	24.1	19.1	30.3
食料品	13.8	1.6	3.1	8.4	15.6	2.7
電気機械	12.8	0.7	2.7	9.1	2.8	12.2
汎用・生産用機械	11.3	4.0	8.5	15.9	4.8	2.0
輸送機械	7.9	9.2	7.4	6.4	4.3	4.7
鉱工業	100.0	3.3	2.5	8.3	6.8	4.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

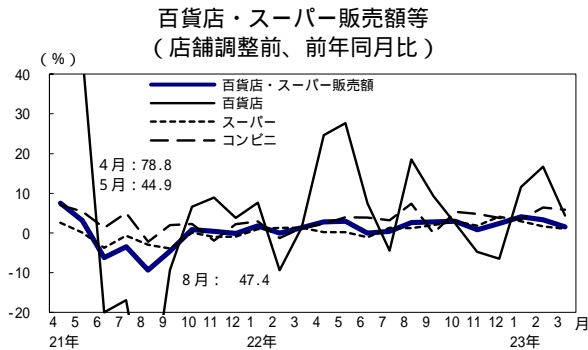
1 - 3月期は前期比0.4%増となった。月別にみると、1月は前月比0.3%減、2月は同1.2%増、3月は同1.0%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比3.0%増となった。月別にみると、1月は前年同月比4.1%増、2月は同3.3%増、3月は同1.6%増となった。

百貨店は、1 - 3月期は前年同期比10.1%増となった。

スーパーは、1 - 3月期は同1.9%増となった。

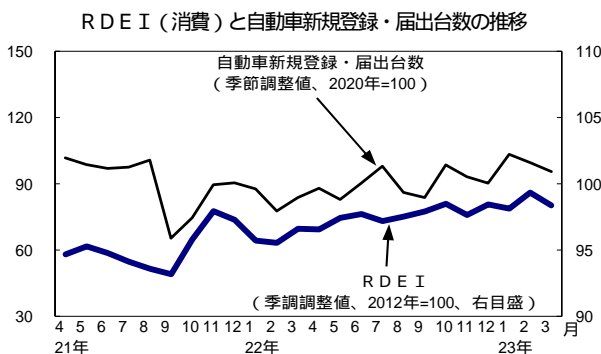


	2023年1 - 3月	2023年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.4	0.3	1.2	1.0
百貨店・スーパー(*2)	3.0	4.1	3.3	1.6
百貨店(*2)	10.1	11.6	16.7	4.4
スーパー(*2)	1.9	3.0	1.7	1.1
コンビニ(*2)	5.2	3.4	6.4	5.9
乗用車(*3)	20.2	19.0	27.6	15.6
(季節調整値)(*3)	5.7	14.3	3.6	4.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

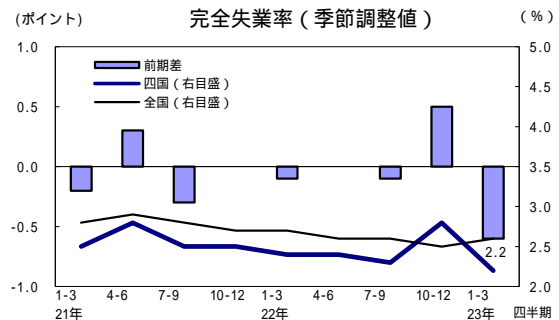
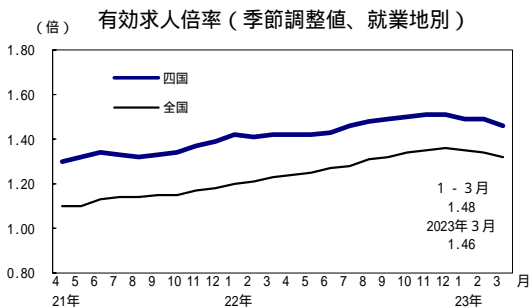
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年4月調査）景気判断理由の概要

10. 四国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	○	・新型コロナウイルス感染症の収束や全国旅行支援に伴う好影響が続いている（観光型旅館）。
		□	・今月の新車販売台数は前年並みである一方、受注台数は前年を下回る状況で推移している（乗用車販売店）。
		▲	・原材料・輸送費の値上げであらゆるカテゴリーの商品単価が上昇しており、購買数などの減少につながっている（コンビニ）。
	企業 動向 関連	□	・公共事業の発注が少ない。民間も良くない（建設業）。
		○	・再生可能エネルギー等の環境に関する仕事において、竹から作る特殊飼料を開発した。認可が得られたので、売上に繋がっている（電気機械器具製造業）。
		◎	・前年秋から新型コロナウイルス感染症発生前を上回る状況になってきたが、全国的に人出が増加したことに伴い、3月以降、小売店からの発注が一段と活発になっている。特に海外からの観光客が急増しており、観光地で外国人に人気の商品の売上が増加している。前年来、一部商品は値上げをしているが、現状では値上げによる影響はみられない（繊維工業）。
	雇用 関連	□	・派遣会社に依頼する企業（求人数）は一定数あるが、派遣会社に登録する求職者数は少ないため、就労につながらず景気が低迷する（人材派遣会社）。
		○	・業界を問わず求人数が増加している（民間職業紹介機関）。
		▲	・物価の上昇により、企業の求人広告が明らかに鈍っている（新聞社 [求人広告]）。
	その他の特徴 コメント		○：新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたこともあり、歓送迎シーズンと花見の影響で飲食にも人が流れてきている。また観光客の増加やクルーズ船の入港もあり、にぎわいにつながっている（商店街）。 ○：ゴールデンウィークに出掛ける予定の人の話をよく聞いており、人が動き出している（美容室）。
先行き	家計 動向 関連	□	・光熱費の上昇や物価高の影響もあり、消費者の節約、儉約志向は続くだろう（一般小売店 [酒]）。
		○	・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、人の動きが活発になるため、帰省や旅行で県外からの来客が多くなると考えられる（スーパー）。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されつつあるため、広告・宣伝が活性化するものと期待したいが、今のところその兆しがみえない（通信業）。
		○	・5月8日以降更に外国人観光客の増加が見込まれ、フェイスマスクの売上は増えると思う。また、外出する人が増え除菌ウェットクリーナーの売上も増える可能性がある（パルプ・紙・紙加工品製造業）。
	雇用 関連	□	・学生アルバイトの求人数は増えてくるが、異動時期が落ち着くと正社員の募集が減少すると予想される（求人情報誌製作会社）。
	その他の特徴 コメント		○：これからは客足が戻り、売上が回復するとみられる（一般レストラン）。 ▲：建築費の高騰に加え、土地も商業地が値上がり転じて動きが鈍くなっており、事業をちゅうちょする人が増えてきたように思う（設計事務所）。

(D I) 現状・先行き判断D I（四国）の推移（季節調整値）

